

単元名 によきによき とびだせ(工作)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) ポリ袋が膨らむ形に合うものを見付け、材料や表し方を工夫することができる。
 (2) 箱から飛び出すもの動きを試しながら、表したいものを考えることができるとともに、作品を動かして見せ合いながら、よさや面白さに気付くことができる。
 (3) 息を吹き込むと膨らむポリ袋の特性を生かした仕組みを使ったおもちゃを、楽しんでつくりだそうとする。

標準的な展開例

01080207_001

【準備等】 参考作品、目打ち、色画用紙、色紙、はさみ、油性ペン、クレヨン、パス、木工用接着剤、セロハンテープ、両面テープ、牛乳パック、紙コップ、ポリ袋、曲がるストロー、毛糸、空き箱、サインペン、のり など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 息を吹き込むと、膨らんで飛び出す仕組みをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て感想を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 強く膨らめるとロケットがと飛んでいくみたいになるんだね。 チョウがたくさん飛んでいくよ。 恐竜の口から火が出てくるよ。 キリンの首が長く伸びるよ。 実際に膨らんで飛び出す仕組みを見て、理解する。 <p>★飛び出す楽しい箱をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ポリ袋にストローをつけて、飛び出す仕組みをつくり、動きを試してみる。 ポリ袋が膨らむときの形や動きを見て、何が飛び出したら面白いかな考える。 ポリ袋に絵をかいたり、飾りを付けたりする。 <p>3～5 箱と膨らんで飛び出す仕組みとを合わせて、楽しい箱をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱にストローを通す穴を空ける。 ふたにする部分を切る。 箱にふたを付ける。 箱と膨らむ仕組みとを合わせ、絵をかいたり飾りをつけたりして完成する。 息を吹き込んで遊んで楽しむ。 後片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> 材料はまだ使えるものと処分するものに分けて所定の場所に置き、使った用具をしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2 上 P. 56, 57 ふたが閉じているときと、ふたが開いて膨らんで飛び出したときの意外性に気付かせる。 箱から飛び出す「動き」や「形」の面白さや楽しさを児童が感じることができるような参考作品を用意して、膨らませて見せる。 教科書の参考作品や仕組みの説明をもとに指導する。 空気が漏れないように、しっかりと接着させる。 いろいろなポリ袋に息を吹き込み、どんな形に膨らむか確かめさせる。 【評】仕組みを使って試し、何が飛び出したら面白いかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 油性ペンで絵をかいたり、色紙を切って貼ったりして工夫させる。 【評】箱から飛び出すものを思い付き、形や色などを考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 穴は鉛筆の先などで空けさせるが、空かない場合は、教師の指導の下で目打ちを使わせる 牛乳パックは、切るのに力があるため、はさみの安全指導をする。 ふたは、簡単に開いたり閉じたりするようにセロハンテープで付けさせる。 つくったり試したりしながら、自分のイメージに合ったものになるように、言葉がけをする。 膨らむのにじゃまにならないように飾りを工夫させる。 【評】作品を通して、膨らんで飛び出す仕組みと箱との関係も楽しめるように、つくり方を工夫する「知識・技能」を評価する。 友達の作品のよさに気付かせる。 遊びの中で、楽しかったことや驚いたことなどを探そうに言葉掛けをし、鑑賞の視点を意識するように図る。 【評】友達の作品を見合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

他教科との関連

生活科でのおもちゃづくりに関連している。中学年の理科での空気の学習へとつなげることができる。